

## ライフコーダの計測が停止して通信ができなくなる現象について

ライフコーダは電池電圧がある基準以下になると計測を停止して「機能停止モード<sup>\*1</sup>」となります。「機能停止モード」となったライフコーダは、USBケーブルでPCと接続しても通信できない状態となります<sup>\*2</sup>。

ライフコーダに電池が入っており画面に何も表示されていない状態で、ライフライザーと通信ができない場合には、新しい電池に入れ替えて USB ケーブルを再度接続していただければ通信が可能となります。

### 「機能停止モード」になってしまうことについて:

本来は、電池電圧が低下すると電池マークが点灯し、電池マーク点灯中またはそれ以前に電池交換をしていただければ「機能停止モード」には通常なりません。ただし、次のような条件下では電池マークが点灯せずに「機能停止モード」になる場合があります<sup>\*3</sup>。

- ライフコーダを非常に低温となる場所で保管した場合。
- 電池が消耗している状態で、ライフコーダを気温が低い場所で保管した場合。

これらは、ライフコーダが使用するコイン型リチウム電池の特性によるもので、電池が低温環境下で電圧低下を起こすことに起因します。

ライフコーダの使用(測定待機状態も含む)は、室外や車内などの気温が低くなる場所での保管はしないでください。また、装着時は体温により電池自体が低温になりにくい状態にありますので問題ありませんが、機器が直接外気にさらされる装着方法では「機能停止モード」となる場合があります。

### 冬季にライフコーダをご使用になる場合のお願い:

寒い季節にライフコーダをご使用される時には次のことにご注意ください。

- 装着者の方へ、ライフコーダを外す時は常温を保てる室内での保管をお願いしてください。
- 冬季は電池交換を早めに実施してください<sup>\*4</sup>。
- 使用する電池は国産メーカーかつ国内製造の電池で製造年月日の新しい物をご使用ください。また、一度使用した電池は再使用せずに新しい電池のご使用を推奨します。(冬期以外でも電池はできるだけ新品をご使用ください。)

\*1: 「機能停止モード」は、電池自体の電圧低下により、機器の性能が担保できない状態でのデータ計測を防止する機能です。

\*2: 「機能停止モード」状態で機器を放置し、電池容量が無くなると「機能停止モード」が維持できなくなります。これにより、USBケーブルにてPCと接続することによりPCから給電を受けての通信が可能となります。

\*3: 「機能停止モード」の電池電圧チェックは深夜 0:00 に実施しますので、「機能停止モード」は深夜 0:00 に作動します。

\*4: ライフコーダのカタログ記載電池寿命は気温 25℃の環境下で未使用電池を使用した場合のものです。また、使用温度範囲は結露なき状態で+5℃～+40℃と規定しています。

ライフコーダのご使用にあたりお手数をおかけして申しわけありません。コイン型リチウム電池は温度による影響を受けやすい為、上記の内容にご注意いただきながらご使用いただきますようお願いいたします。